2024年（令和６年）
12月21日
（土曜日）

THE KENSETSU MIRAI TSUSIN
建設未来通信

茨城全県版
発行所：茨城県水戸市笠原町1523-3 桂ビル２階
TEL:029-291-8855 FAX:029-291-8854
https://www.kensetsumirai.co.jp
新聞購読料　月額5,940円（税込）
電子版購読料　月額4,400円（税込）

設計&監理
（一社）茨城県建築士事務所協会会員
株式会社 柴建築設計事務所
水戸市泉町3丁目1番28号第二中央ビル７階
TEL.029－227－0222［代］FAX.029－231－0960

茨城の公共・公益事業
～歴史をたどり、後世に残す～
県開発公社理事長・土地開発公社理事長編⑦

茨城県土地開発公社について②
～茨城空港アクセス道路の用地取得に貢献～
渡邊 一夫 氏 × 羽成 英臣 氏

渡邊 一夫 氏：元県開発公社理事長
羽成 英臣 氏：元県土木部次長（当時：県水戸土木事務所長）

常磐自動車道石岡小美玉スマートインターチェンジは、平成23年3月に供用開始されました。一級河川園部川を挟んだ石岡市、小美玉市の境界付近に、本線直結型のフルインターとして設置されました。このインターを使って、茨城空港の利便性は大幅に向上することになるのです。今回は茨城空港と、このインターを結ぶ道路の用地取得に関わった土地開発公社の話をしたいと思います。2年間、50回の連載も今回で最後となります。非常に感慨深いものがありますが、関係された方々に深く感謝申し上げ、締めとさせていただきます。

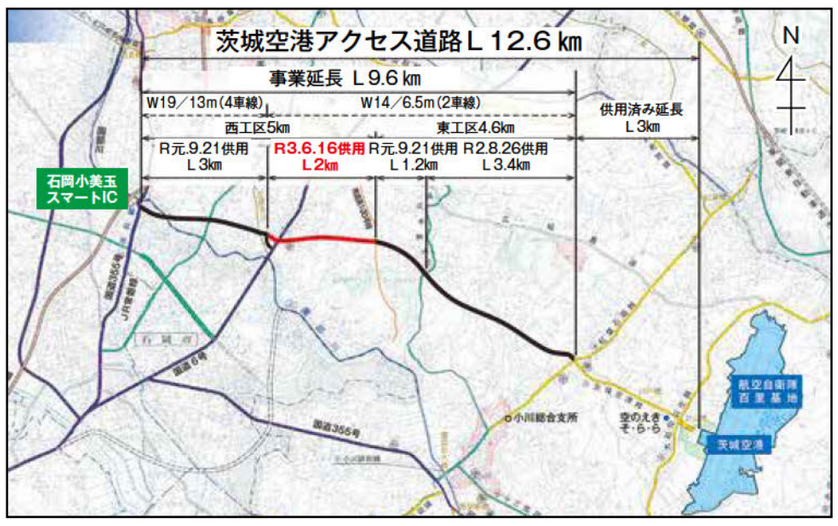
（弊社HPトピックスに掲載）

国から受託した東関東自動車道の用地取得業務に目途がついた平成27年（2015年）、今度は土木部から大きな相談が持ち込まれました。

茨城空港と石岡小美玉スマートインターチェンジを結ぶ、いわゆる茨城空港アクセス道路（延長9・6㎞）を、県と小美玉市で施工区分を決めて整備することになったので、その用地取得業務を土地開発公社に頼みたいというのです。私は空港にもインターにも大きく関わってきており、前々からできればいいなと思っていた道路でしたので、内部協議して即受託することにしました。

さっそく、県から4名、小美玉市から2名の職員を派遣していただき、平成28年4月、水戸合同庁舎内に「空港関連道路用地室」を立ち上げました。この事業の実務は水戸土木事務所が行うので、連携して仕事がやりやすいように水戸合同庁舎内に設置したのです。

室員には、東関道の先例を参考に、用地事務と地権者さんへの対応の仕方を徹底的に勉強してもらいました。室長を含めた6名を、2人1組の3班に分け、それぞれの区間を分担してもらい、個別訪問を主体に頑張ってもらいました。ルート上にはニラの生産農家がたくさんありましたので、その補償については事例をよく調べて、丁寧に行うよう指示しました。



用買から6年後、全線開通

県と市と公社の関係者で、ときどき調整会議を開き、意見を出し合い全員で考え、納得して進められたのが良かったのだと思います。振り返ると、東関道の時も同様でしたが、室員の皆様が用地交渉にあたり、地権者さんの話に真摯に耳を傾け、地権者さんの立場に立って、時には一緒に悩み、勉強するなどした結果、多くの方々に快く了解いただけたのだなと、しみじみ思っておりました。

こうして、2年間で297名の方々と契約を結ぶことができました（契約率97・3％）。残りの方々の対応については水戸土木事務所におまかせして、業務を終えたのです。改めて、関係された方々に深く感謝申し上げます。

この道路は、その後関係者の皆様の頑張りにより、用地取得開始から6年後の令和3年（2021年）6月に全線開通となりました。この全線開通により、茨城空港の利便性は大幅に向上したのです。

この道路は常磐自動車道石岡小美玉スマートインターアクセス道路でもあり、また、この沿線地域の生活道路でもあり、地域発展のための重要な幹線道路なのです。本当に、開通してよかったです。

この連載も、これが最終回です。最後に一言。

私は「元気」という言葉が大好きです。「茨城の元気は土木部から」などと言いながら、私たちはみんなで頑張ってきたのです。

10㎞のバイパス、5年で完成

平成22年（2010年）3月に開港した茨城空港は、毎年順調に利用者数を伸ばしていましたが、同時に首都圏からの分かりやすいアクセスが求められるようになってきました。平成25年（2013年）に、東京でのオリンピック・パラリンピックの開催が決定すると、茨城空港は首都圏第3の空港としての役割を一層期待されることとなりました。

県では、茨城空港と常磐自動車道石岡小美玉スマートICを1本で結ぶ新たなバイパスの検討を進め、平成27年（2015年）4月に事業化しました。

当初、このバイパスの名称は「（仮称）石岡小美玉スマートICアクセス道路」でした。茨城空港をどこと結ぶのか表した名称です。

事業延長は9・6㎞で、西側の5㎞（西工区）を茨城県が、東側の4・6㎞（東工区）を小美玉市が整備することとしました。この東工区は、県の合併市町村幹線道路緊急整備支援事業に指定されたことから、調査、設計、工事の一部は県が支援することになりました。

このバイパス整備最大のミッションは「東京オリンピック開催までにバイパスを開通させること」でした。10㎞近いバイパスを5年程度で完成させた経験はありませんでしたし、課題もたくさんありましたから、みんなかなり厳しいと思っていました。

早速、事業化に合わせて創設された水戸土木事務所空港関連道路整備推進室が事業計画の説明会を開始し、1年目から路線測量、道路詳細設計、用地測量、土地評価、不動産鑑定などを次々と進めていきました。

しかし、取得が必要な用地はおよそ500筆、地権者は約300人にも及ぶため、通常の執行体制で早期に用地を取得することは困難です。そのため、用地買収は茨城県土地開発公社の協力を仰ぐしかないと考えました。

すぐに、渡邊一夫茨城県土地開発公社理事長（当時）に土地開発公社への委託スキームについて説明させていただきました。これまで様々なプロジェクトを実現させてこられた方ですので、同意いただいた時は本当に心強かったです。

早期に買収できるよう、事前に用地交渉の方式や標準値価格、補償の考え方などについて、理事長にも入っていただき、打ち合わせを行っていきました。

土地開発公社の参画に合わせて、理事長の声がけで県と小美玉市と土地開発公社のアクセス道路関係者が一同に集まり、懇親会を実施したことをよく覚えています。50人を超える関係者によって意見交換が出来たことで、団結力が生まれ、士気は上がり、事業に推進力が生まれたと思っています。

そして、小美玉市には予算の確保や人事面などで大変お世話になりました。市職員を、県や土地開発公社に多数派遣いただきました。県と小美玉市が良好な関係を築けたことが、このプロジェクトを支えていたと思います。

用地につきましては、平成28年（2016年）度～29年（2017年）度までの2年間で97％を取得することが出来ました。土地開発公社の協力があってこその結果です。用地が取得できたところから、待ったなしで工事を進めていきましたので、周辺は工事だらけの状況でした。

令和元年（2019年）9月、アクセス道路で最初に開通したのは、常磐道石岡小美玉スマートICから国道6号間までの3㎞区間でした。道路幅が4車線であり、JR常磐線を跨ぐ正上内跨線橋がある難工事区間でしたが、石岡市周辺の渋滞緩和に大きく寄与できる区間であり、「いきいき茨城ゆめ国体」の開催に間に合わせたいという担当者の頑張りが実りました。

また、この初めての開通に合わせ、この道路の名称を「茨城空港アクセス道路」に決定しました。茨城空港へのアクセス道路は他にもありますが、やはりこの道路のインパクトを示すにはこの名前しかないと考えました。

その後、多少のアクシデントに見舞われながらも着々と工事を進め、東京オリンピック開催直前の令和3年（2021年）6月「茨城空港アクセス道路」は全線開通。ミッションは無事成功しました。

新型コロナウィルス感染症の影響で東京オリンピックが無観客での開催となり、当初想定されたインバウンド需要もなくなり、オリンピック期間中のアクセス道路の活躍が見られず少し残念でしたが、「茨城空港アクセス道路」は茨城空港のため、地域のため、ますます活躍しています。

最後になりますが、この連載記事「茨城の公共・公益事業」は、県土の発展に尽くした様々なプロジェクトに再び光を当て、関係者の証言から歴史をたどり、埋もれがちな背景や過程も文字として後世に残されました。その意義とこれまでのご努力に深く敬意を表します。

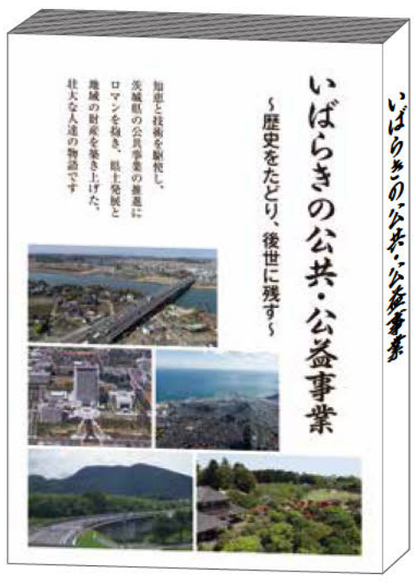
（島津就子）

いばらきの公共事業を紐解く

羽成　英臣（はなり　ひでおみ）
1962年6月18日生まれ。61歳。入庁時期は86年で、河川課に配属となった。その後、道路建設課長、水戸土木事務所長、土木部次長などを経て、2023年3月に定年を迎えた。現在は当時の経験を活かし、茨城県道路公社の理事長を務めている。

書籍化決定　2025年1月発売

『茨城の公共・公益事業』
～歴史をたどり、後世に残す～



新聞連載した全50回収録

2023年（令和5年）1月からシリーズ化し、2024年（令和6年）12月をもって、全50回の新聞連載が終了する「茨城の公共・公益事業」～歴史をたどり、後世に残す～が、ご購読者様からの好評により、書籍化を決定。年明け1月、いよいよ1冊の本として、発行致します。茨城県の土木行政に深く携わり、数えきれないほど多くの工事を手掛けてきた渡邊一夫さん（弊社顧問）と、その工事に関わった人たちが語る思い出深い工事、その経緯・歴史を記録として残しました。公共事業の推進にロマンを抱き、県土発展と地域の財産を築き上げた人たちの壮大な物語です。どうぞ、手にとってお読みください。

先行予約 受付中
ご予約期限 2024年12月27日（金）まで
本体価格3,000円（税込）のところ ―
期間限定1,500円（税込）でご提供
申込書はHPよりダウンロード

申込・問合せ先　TEL 029-291-8855（事業企画部・出版係まで）
株式会社 建設未来通信社　〒310-0852 茨城県水戸市笠原町1523－3 桂ビル2階